

# ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医の

カルテ



48



チエコペット  
クリニック院長  
岡本 千栄子  
(高岡市大野)

私が子供の頃には、今のようなペットショップはありませんでした。当時は犬猫が欲しいからといって店で買わなくとも、春や秋になると、草むらや土手などに子犬や子猫が落ちていたものです。

「落ちていた」というのはあちこちに小さな命が捨てられていたということ。もちろん命に大きいも、小さいもないのですが「小さい」という表現には、かわいという意味が含まれているので、人は「ちっちゃな命」を拾い上げるのです。

最近の子犬の姿を見かけません。室内飼育になり、避妊去勢手術をしていることが多く、繁殖し

## 拾った小さな命



## 欲しがらだけミルクを

ないからです。でも手術を受けていない猫は繁殖期に家から脱走し、恋人(猫)に会いに出掛けます。北陸は自然が豊かなので、子孫を増やします。動物愛護団体の方が手術を手助けし、里親を探してくださいますが追いつきません。

拾った子猫、子犬をどのようにして育てましょうか？  
親から離れた子は体温が下がっています。まず保温しましょう。ふわふわの温かい敷物と、80度ぐらいのお湯で満たしたペットボトルを新聞紙で包み、その上からバスタオルを巻いたものを用意します。そして、母親の代わりに子供の体に寄せてあげます。

子犬専用、子猫専用の粉ミルクと哺乳瓶も必要です。生後7日にも満たない、目も開いていない赤ちゃんは哺乳瓶のニップル(乳首)が大きすぎるので、動物病院で指導を受けてください。ミルクを注射器のシリンジで直接口の中に垂らしたり、食道カテーテルで与え

たりしてくれます。  
ミルクは欲しがらだけ与えてください。10分前に飲ませたばかりなのに、すぐねだることもありません。排せつも子猫自身ではできません。本来なら母猫がなめ、排せつを促すのです。ミルクを飲ませ終わるたびにお湯で温めた脱脂綿を使って、お尻の辺りを優しくマッサージして排せつさせてください。最初はうまくできないので、獣医師に教えてもらいましょう。  
生後1カ月半から2カ月ごろになると、離乳食に入ります。いきなり子供用フードを与えるのではなく、粉ミルクをヨーグルト状の硬さに溶いて少しずつ与えます。動物病院で体重測定や検便もしてください。3カ月前になれば、伝染病の予防注射もできる頃です。  
これから秋になります。小さな鳴き声を上げ、助けを求める場面に遭遇するかもしれません。許されるなら手助けをしてあげてください。

20年前に保護された三毛猫のバルカちゃん(左)と、生後7日ごろに拾われてよくやく目が開いた子猫の豆ちゃん。2匹は別々の家で育てられている